佐渡米通信

こめ～る

2024年 4 月号

発行日:2024年4月
発行：佐渡農業協同組合　担当：総務部企画課　駒形(葵)
jasadosoumu02@snow.ocn.ne.jp

ドローン液肥散布による高温障害対策の検証結果

JA佐渡では近年の夏季の高温による米の品質低下が深刻な懸案事項となっており、早急な対策が求められています。これまで高温時の緊急対策であった追加穂肥による後期栄養確保を今後は毎年高温になる想定で施肥計画が必要と考えられます。しかしながら従来の穂肥は施肥時に水が必要のため猛暑と少雨により十分な水がなければ効果を発揮することが出来ません。昨年度はドローンによる液肥散布の実証試験を行ったところ、従来法による施肥とほぼ同等の収量及び品質結果が得られました。今回の実証試験の結果を受け、実証農場では今年度から本格的に導入する準備を進めています。

JA佐渡では品質を第一としながらも省力化・安定生産を目指した技術の確立と普及推進に努めて参ります。

JA佐渡管内の実証農場で試験をしている様子

JA佐渡新規就農研修生にインタビュー

JA佐渡では2021年から担い手育成制度を設けています。本制度では研修生がJA職員として3年間働きながら、農業の知識や技術を身に付けることが出来ます。今回、家業の農園を継ぐことを目指し研修している齋藤瑞樹さんにインタビューさせてもらいました。

齋藤さんは小さい頃、農業を意識することが少なかったそうですが、地域の方から「いつもありがとう、おいしかったよ」と声を掛けられることが多かったそうです。大学在学中に父が怪我をした際、祖父や父が積み上げてきたものを絶やしたくないという想いを抱いたそうです。本研修を土台として成長し、父から早く田んぼを任せてもらえるようになりたいと語られていました。

大学時代に農業と福祉的活用を学んだ際、様々な事情で就労のタイミングを逸した方を雇用する父の取り組みが、社会参画支援、立ち直り支援を担っていることに気づいたそうです。インタビューを通し、齋藤さんの家族への尊敬と農園の理念を引継ぎたいという想いが伝わってきました。

JA佐渡では未来ある農業の担い手の入り口となれるよう引き続き担い手制度の取り組みを推進して参ります。

もうすぐ研修生2年目を迎える齋藤さん

齋藤さんのご実家が営む農家カフェ「齋藤農園 Fruit&Cafe Saito」

研修先の方々と一緒に江まわりの草刈りを行っている様子

祝！佐渡島の２JAが合併し、新生JA佐渡誕生！

新生JA佐渡は、
島内１JAになることで、
一層の佐渡農産物の
ブランド強化に努めます

合併したJA佐渡とJA羽茂

合併した旧JA羽茂

敷地内にある電話ボックスに「マルハ」ブランドで有名なおけさ柿のオブジェ

温湯消毒 | 春耕転 | 苗づくり | 田植え | 水管理 | 中干し | 穂肥 | 稲刈り | 秋耕転 | ふゆみずたんぼ

facebook

instagram
JASADOTANBO